

講座・イベントの  
ごあんない

イベント	日時
■推進センター 会議室の定員制限解除	10月1日(木)から
■マネジメント講座「NPO入門」	10月10日(土) ~ 10月23日(金)
■市役所 1F パネル展示 参加団体募集	10月10日(土) ~ 11月5日(木)
■市民活動推進センターの休館日変更(文化の日)	11月3日(火) → 11月4日(水)
■プラザdeカフェ「スマホについて詳しくなろう」	11月10日(火) 10:00 ~ 12:00
■「Zoomを使いこなして、活動に活かす！」	11月29日(日) 14:00 ~ 16:00

NEW!

支援施設からのお知らせ

■推進センター 会議室定員の制限解除について

神奈川県及び藤沢市の新型コロナウイルス感染症対応方針の変更に伴い、推進センター会議室については、感染拡大防止策を講じたうえで、10月1日(木)より通常通りの定員でご利用いただいております。(会議室A:30名、会議室B:20名)その他の感染症対策については継続いたしますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■市役所 1F パネル展示 参加団体募集中!

11月26日(木)~12月9日(水)の期間、藤沢市役所1Fラウンジにて、市民活動団体のパネル展を実施します。現在、参加団体を募集しています。 ※期間及び展示場所は変更の可能性があります。

応募締切: 2020年11月5日(木)  
募集団体数: 16団体  
問合せ・申込: 市民活動推進センター

■プラザdeカフェ「スマホについて詳しくなろう」

人とのつながりが難しくなっている今だからこそ、もっとスマホに詳しくなりませんか? 知っているのと便利に利用できることを体験します。

日時: 2020年11月10日(火) 10:00~12:00  
場所: 市民活動プラザむつあい  
内容: 各自のスマホで、様々な場面を想定して利用方法を考えます  
料金: 無料  
対象: ご興味のある方誰でも参加ください。  
定員: 10名  
問合せ・申込: 市民活動プラザむつあい

■ミライカナエル活動サポート事業 採択事業の決定

人口構造の変化や住民ニーズの多様化を起因とする地域社会の課題の解決や暮らしの豊かさの実現に向けて、市民活動を支援する、藤沢市の「ミライカナエル活動サポート事業」につきまして、採択事業が決定しました。以下の団体の事業が採択されました。

1. スタート支援コース
  - ・障がいのアナ
  - ・SASP (Sustainable Arts & Sports Project)
2. ステップアップ支援コース
  - ・ホームスクーリングで輝くみらいタウンプロジェクト
  - ・(N) 湘南食育ラボ
  - ・湘南市民ワークショップ

※詳細は、QRコードのリンク先よりご覧ください



■センター・プラザ同時開催  
「Zoomを使いこなして、活動に活かす！」

オンラインでのコミュニケーションツールとして、関心が高まっている「Zoom」。センター・プラザをつないで、団体の会議などへの導入に必要なことを学びます。

日時: 2020年11月29日(日) 14:00~16:00  
内容: Zoomを活用することでできること(予定) ほか  
料金: 500円  
対象: NPO・市民活動・地域活動に関わっている方で、オンラインを活用した会議手法を学びたい方  
問合せ・申込: 市民活動推進センター又は市民活動プラザむつあい

発行: 藤沢市市民活動支援施設

本館: 市民活動推進センター

開館時間 9:00 ~ 22:00 火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢1031 小島ビル2階

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館: 市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00 ~ 19:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階

TEL & FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL: http://plaza6i.f-npon.jp/



編集: 認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構 (藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体)

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております。サポーターも随時募集中です!



特集: 踏み出すと「楽しい」



「自粛という言葉はすごく怖い言葉です。」NPO法人ドリームエナジープロジェクト代表の内海さんはそう語り始めました。「動かないことがよしとされ、何かすることを躊躇してしまう。このままでは、これまで積み重ねていたものが途切れ、コンサートも演劇も何もできなくなってしまう。だから、何もしないのではなく、少しでも何かやっつけていこう、と決意しました。」

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、3月のコンサートは延期が決定、「学びと体験の場」であるドリプロスクールも開催できず、7年間続けてきた取り組みが途切れてしまいかねない状況でした。その中で少しずつできることを積み重ね、10月1日(木)からの

オンライン配信という形でコンサートが実現しました。まだまだ“自粛”ムードが続く中、一歩でも半歩でも前に進みたいという思いで作上げたオンラインコンサートについて内海さんにお話を伺いました。

ドリームエナジープロジェクトは、知的ハンディのある子どもや若者たちの社会参加の支援をする団体です。ドリプロスクールでは、歌や演劇、ダンス、書道などの活動に取り組む場をつくり、発表の場である作品展や公演に向けて、楽しみながら可能性を伸ばしていきます。

(つづく)



## 特集：踏み出すと「楽しい」

内海さんは子どもたち一人一人の成長をお話してくれました。「Hくんは、最初ささやき声しか出なくて、セリフは言えないと思っていたのですが、練習を重ねていくうちにだんだん声が出るようになりました。とても早くで恥ずかしがりやなSさんは何かをやってみてと言っても『あとで!』という子でしたが、昨年演劇で大役を任されたことで、とても積極的にになりました。」

発表会や公演は、彼らの個性を人前で披露する機会になっています。「パフォーマンスを見た人が、彼らの笑顔や個性を知り、それにより障がい者と健常者の壁を少しでも低くしていきたい。私たちの活動はそのことにつながっていると思います。」と、活動の中でも特に重要だと感じているようでした。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、そうした活動にも影響を及ぼしました。コンサートは今年3月に予定していましたが、延期を余儀なくされ、レッスンも3月から休講。できることからやっつけていこうと、5月にはオンラインレッスンを始め、コンサートについては、オンラインでの実施を決意し



ました。コンサート後半に予定していたセリフ劇は、集まった練習ができないため、今回は一人3分程度で、手品や英語などそれぞれが選んだことや、メッセージを発表することにしました。「今回初めて出たメンバーが、『いろんな人にやさしくしてもらったので、今度は私が人を助けてあげられるようなやさしい人になりたい』というメッセージをくれて涙が出そうになりました。」と、メンバーたちの個性が活かされた今回の試みを価値あるものにできたという満足感が伝わってきました。

最後に“新型コロナウイルス感染症の収束後に何がしたいか”をお聞きしました。「コロナが収束したら、演劇をやりたいですが、まずは、みんなの気持ちが集まらないとできない、前向きになれるようなことに取り組んでいきたい。今はなかなか一歩が踏み出しにくい状況。何をしたら、というのはまだ具体的に見えてはいないけれど、踏み出すと『楽しい』ということを思い出してもらえるようにしたい。」

活動を途絶えさせないという思いと、その方法を探り、実施していくことがこのコロナ禍で市民活動団体に求められてきています。こうしたことを通じて自分たちの活動の重要性にも改めて気づくことができるかもしれません。

「素敵な出会いオンラインコンサート」は以下からお申し込みが可能です。

【視聴方法】Email：info@dre-pro.net  
に視聴申し込みのメールを送ってください。

視聴用 URL をお送りします。

【視聴料金】無料

【視聴期間】10月1日(木)～10月31日(土)

(取材/記事作成 関野・佐久間)

## 団体紹介

### NPO法人 ドリームエナジープロジェクト

理事長 内海智子  
設立：2015年3月23日  
問合せ：info@dre-pro.net  
0466-83-1173  
HP：https://www.dre-pro.net/



ドリームエナジープロジェクトは大きく3つの活動をしています。1つめは、ダウン症や自閉症など知的ハンディのある青少年の「学びと体験の場」をつくる教育活動。2つめは、彼らの個性を生かした表現を通して障がいについて知ってもらおう公演活動。3つめは、地域のお店や会社でお仕事体験をする社会参加活動。2016年より舞台『21番目の素敵な出会い』を実施。ダウン症や知的にハンディのある人の明るい笑顔と元気で輝いている姿に出逢えるスペシャルイベントとして好評を

博しています。活動にご関心のある方はぜひホームページをご覧ください。



## 知っていますか。「協働コーディネーター」

## NPO TIPS

NPOの活動は社会的な資源を巻き込みながら実施します。中でも、行政や企業との「協働」は、社会の課題解決に結びつく事例が多く、近年クローズアップされてきています。

「協働」は、「協力」や「協同」などに比べ、一般的にはより結束の強さを想起させます。それぞれの組織の目的につながる「共通の目標」を設定して、互いの力を発揮して事業の成功を目指すことになります。(共通目標の設定)

協働で事業を進めるにあたっては、お互いを理解して尊重し合うことが不可欠です。相手の得意・不得意を、お互いに受け入れ合い、それを前提としてどちらが何をするかということに落とし込んでいきます。(お

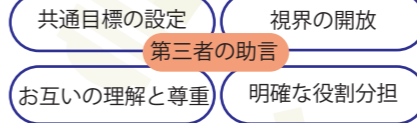
互いの理解と尊重)

目標設定し、お互いの特性を理解しあうことができれば、事業に対する考え方が広がります。それに伴って、課題に対する気付きもより多くなります。もちろん、そうした協働のメリットを享受するためには、細やかな情報の共有が不可欠です。課題をより多く拾い上げ、得意とする側が対処する。基本的な目的が近い組織同士でも、新たな気付きを得るよい機会になるかもしれません。(視界の開放性)

視界が広まれば、それぞれの役割も自ずと定まり責任も明確になり、事業の全体像やスケジュールが見えてくるようになります。動き始める前にこうしたイメージが見えてくるのであれば、お互いが迷わず事業にあたることができます。(明確な役割分担)

勿論現実には元々別の組織でもあり、つながりを持つことやお互いを理解し合うまでが最初の課題となります。そうした段階にこそ、多くの協働事例について知識を持つ「協働コーディネーター」を活用することをお勧めします。

他の団体と一緒に活動を取り組んでみたい、助成金にトライしようと考えたときは、ぜひ「推進センター」「プラザむつあい」にお電話やメールでご連絡ください。(鶴)



## NPOは信頼できるのか



特定非営利活動促進法(NPO法)が施行されて、20年が経ちました。法の制定当時、特定非営利活動法人(NPO法人)数は2万程度と予想されていましたが、5万以上が誕生し、現在も設立は続いています。このことは、多種多様な社会課題の解決といった公益性の高い事業の担い手として、NPOの役割が一定程度日本社会に受け入れられつつあると考えられます。しかしながら、ボランティア活動をはじめとする社会貢献活動への国民の意識が63%程度※1ある一方で、NPOへの興味関心は38%※2に留まっている現状があります。NPOとして活動している組織の市民参加への意識や、社会へのアプローチ力の低下が要因の一つと考えられます。NPOへの不信感を抱く一定数の市民が存在するのです。つまり、NPOと名乗っていても、全面的に信頼できるとは限らないことを多くの市民は20年間で学習してきたといえるでしょう。

では、どのようにしたら信頼を回復できるのでしょうか。2004年に発表された「信頼されるNPOの7つの条件」を紹介し、これは、NPOを支援する全国各地のNPOに所属するメンバーが議論を重ね作成したもので、最も大切とされていたことは、①NPOは、まずそのサービスの受益者から信頼されなければならない。②そのNPOを応援する支援者からの信頼も欠かせない。③それらを含む社会全体からの信頼が必要。この三者の信頼を得たとき、それが「NPOらしいNPO」なのだと言えると結論を出し、条件を考えました。



1. 明確なミッションを持って、継続的な事業展開をしていること
2. 特定の経営資源のみに依存せず、財政面で自立していること
3. 事業計画・予算の意思決定において自律性を堅持していること
4. 事業報告・会計報告などの情報を積極的に公開していること
5. 組織が市民に開かれており、その支持と参加を集めていること
6. 最低限の事務局体制が整備されていること
7. 新しい仕組みや社会的な価値を生み出すメッセージを発信していること

いかがでしょう。受益者・支援者・社会全体の信頼を得る条件は揃っているでしょうか。NPOは、NPO自身も取り巻くステークホルダーも、全てが市民です。上記条件を満たし、状況をわかりやすく継続的に情報開示することにより、小さな信頼の芽が芽吹きます。信頼の芽は手入れを怠ると直ぐに枯れてしまいます。コロナ禍の影響で活動のスピードが緩やかになった組織も多いと思いますが、ピンチはチャンスと捉え、自組織の信頼の芽の成長具合をチェックしてみる時間をとってみませんか。(て)

※1 2019年度「社会意識に関する世論調査」(内閣府)  
※2 2019年度「市民の社会貢献に関する実態調査」(内閣府)